

OIC バイオバンク バンク長

朝野 仁裕 (ASANO Yoshihiro)



内容・特徴 国循バイオバンクでは、主に循環器病（心筋梗塞などの心血管疾患、脳梗塞などの脳血管疾患、脂質異常症などの代謝疾患）での血液、組織およびそれらに付随する医療情報を保存し、原則として共同研究の形で試料を提供しています。

収集試料・臨床情報

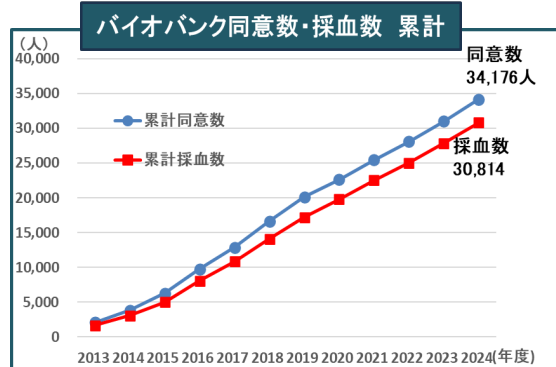
国循病院受診協力者からの試料・情報

- ・バイオバンク標準採血検体
ゲノムDNA、血清、血漿、生細胞
- ・臨床採血残余検体
- ・病理標本（剖検等）
心筋組織など（凍結組織、ホルマリン固定パラフィン包埋[FFPE]標本）

付随情報

- ・電子カルテ及び各種部門システムからデータウェアハウス（DWH）を介して収集する臨床データ
- ・ナショナルセンターバイオバンク ネットワーク（NCBN）共通問診票

収集済試料の種別毎人数

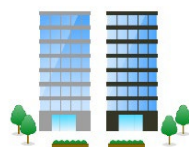


DNA	31,155 症例
血漿	36,238 症例
血清	37,094 症例
生細胞	32,657 症例

（令和 7年 3月末 現在、収集継続中）

特色

- ・バイオバンク同意で、「遺伝子解析や民間企業による研究開発を含む」将来の医学研究への利用が明記。
- ・希少疾患の解析で優位性のあるバイオバンクの既存保管試料を用いた研究のほか、バイオバンク標準採血以外の特定のタイミングや試料種を要する研究についても個別研究同意を取得する前向試料収集で実現することが可能。
- ・循環器疾患患者に加え、健診患者についてもバイオバンク同意・試料の取得を推進。



共同研究
産学連携



国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
National Cerebral and Cardiovascular Center

期待される効果・応用分野

循環器病などにおける血液や組織を医療情報と組み合わせて、新しい検査法、治療法、予防法などの医学研究・開発に活用し、病気の原因解明や医療に役立てます。

- ・バイオバンク試料（血清、血漿、ゲノムDNAなど）を用いた研究開発
- ・バイオバンク試料（生細胞）を用いたiPS細胞研究 ・検査基準分析

特許・共同研究等

各種機関に提供し、共同研究を実施

試料・情報提供実績 89件

（国循内：43件、大学研究機関：28件

企業：11件、ナショナルセンター：7件）

産学連携本部から一言

国循バイオバンクを利用して、病態の解明や各種医療への応用に興味をお持ちの方々は、お気軽にご相談下さい。